



国民の森林・国有林

広報

中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎(026) 236-2531

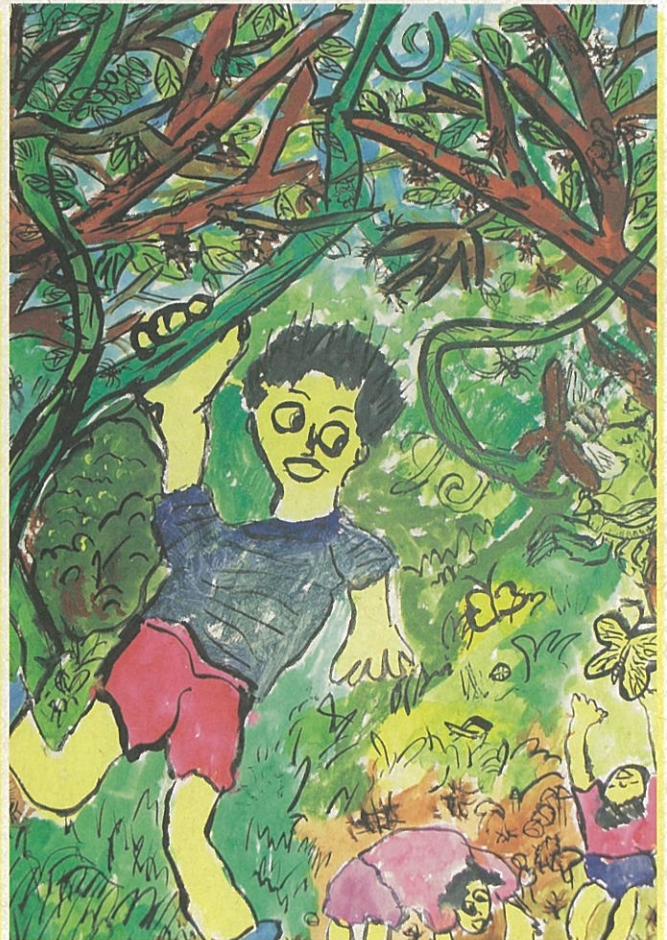
<http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/>



題名「清香」

中学生部門 局長賞

愛知県日進市 神谷碧里さん



題名「自然は友だち ゆかいな冒険隊」

小学校高学年部門 局長賞

名古屋市東区 佐伯隼一くん

森林に対する思いをこめて

「森林の絵画コンクール」開催

(P 2 に関連記事)

主な項目	○ 森林の絵画コンクール P 2
	○ 民有林直轄治山事業地において治山現地検討会を開催 P 2
	○ 各地からのたより P 3~7



「森林に対する 思いを込めて！」 森林の絵画コンクール

「名古屋事務所」中部森林管理局名古屋事務所、中日新聞社、中部日本治山治水連盟主催の「森林の絵画コンクール」の表彰式が十月二十三日、瀬戸国有林にある森林交流館において行われました。応募総数三百八十七点の中から優秀作品として選ばれた二十点が表彰されました。

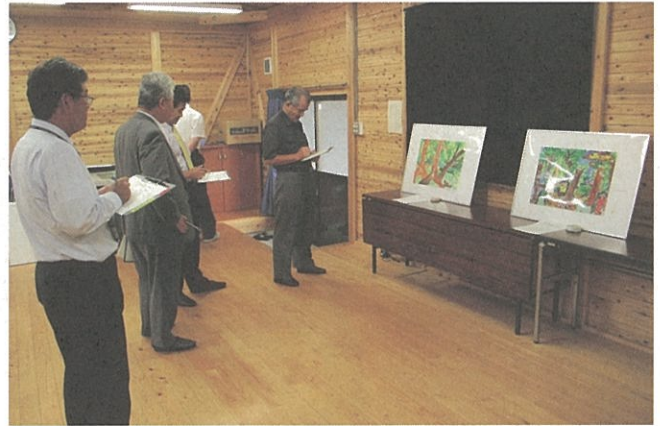
このコンクールは、環境の悪化が社会問題となつていの中で、環境保全の一環としてきれいな水や空気を作り出している森林の大切さを、次代を担う子供達に、絵画を通じて理解していただきたいとの思いで、平成九年度から取り組んでいるものです。昨年度は、組織再編等の関係で、体制が整わず中止をせざるを得なかったことから、当初はこの影響がでるのではないかと心配しましたが、多数の応募をいただきました。

表彰式では、浅岡副所長が、「森林に対する思いを込めて描かれており、その思いが鮮明に表現されている作品が多く感じられました。」と講評が述べられ、天木指導普及課長から局長賞（金賞）が渡されました。

応募作品については、十一月一日から十二月四日（学年別）まで森林交流館にて展示しています。



表彰式風景



審査風景

民有林直轄治山事業地において 治山現地検討会を開催

「治山課」十月二十日から二日間に亘り平成十七年度治山現地検討会が伊那谷総合治山事業所事業実施箇所で開催され、各署等から二十四名が飯田市松川入に集合し治山技術の研鑽を図りました。

二十日は、松川入地区民有林直轄治山事業地において山腹荒廃地の浸食量予測のために設けられた試験地で崩壊地の土砂浸食について研修を行うとともに、牧小谷沢山腹工施工地において山腹工の工種配置について活発な討論が行われました。

翌日は、小渋川民有林直轄治山事業地に検討会場を移し、大西山・鶯ヶ巣の二大崩壊地を視察しました。

大西山崩壊地は、昭和三十六年の豪雨により大崩壊が発生し、四十二人もの尊い命を奪った崩壊地で、現在の崩壊地面積十八畝、下部の崩落土砂を含めると三十六畝に及んでいます。最大傾斜五十度に及ぶ当該地の無人化機械施工による復旧状況を視察しました。

鶯ヶ巣崩壊地は面積三十三畝・強アルカリ性の崩壊地で、当初の復旧工事は困難を極めたことから崩壊斜面を分断する形での大型階段工を開設することにより、効率的な施工と作業者の安全確保を図った工事箇所を視察し、今回の現地検

討会を終了しました。

その間には、大鹿村宮の中央構造線博物館において、学芸員から中央構造線について詳細な説明も受けました。



大西山施工地

人のうごき

中部森林管理局人事

十月三十一日付

▽退職（局経理課収入係長）

市川美重子

十一月一日付

▽局経理課収入係長（局経理課付）

三浦 勝巳

十一月十三日付

▽退職（飛騨署業務第一課付）

瀧村 亮

金曜会の国有林視察

―長野県内マスコミ各社の長―

赤沢自然休養林を視察

〔広報室〕十月二十七日、金曜会（長野県内マスコミ各社の報道責任者の会）による国有林視察を実施しました。

今年は、木曽署管内の木曾ヒノキの美林が残る赤沢自然休養林を視察しました。

このエリアには、六月三日に実施された御杣始祭の跡地や治山事業等の展示施設、森林鉄道などがあり、見所の多い視察となりました。

森林管理局からは木内総務部長、中嶋広報室長、有井広報主任官が同行し、木曽署の花見署長、小林管理官らが案内に当たりました。

当日は、好天に恵まれ、七社が参加しました。

御杣始祭の跡地では、花見署長が古式に則った伝統的技法「三ツ紐切り」で伐採された御神木の切株を前に、その伐採方法や御杣始祭の様子について臨場感あふれる語り口で説明すると参加者から思わず感嘆の声がもれました。

また、参加者からは、伐採方向の確定の仕方、伐倒時の木の割れ等について質問がなされました。

赤沢展示エリアでは、間伐材を使った丸太積護岸工、丸太枠帯工、丸太法枠工、コンクリート床固工（スリットダム）な

どを見学しました。

昼食後、森林鉄道で終点の丸山渡まで約一キロを乗車し、復路は、林立する木曾ヒノキの林間の駒鳥コースを散策し、途中、二十年前の昭和六十年に行われた御杣始祭の跡を見学しました。



三ツ紐切りの説明を聞く参加者

散策の途中、木曾五木の見分け方、木曾ヒノキの生立ち、木曾ヒノキとアスナロの生長の違い等について職員が分かりやすい説明をすると、参加者は、興味深そうにうなずいたり、質問をしたりしていました。

参加者は、赤沢自然休養林が初めての方もあり、「もっと早く来たかった。紅葉は来週でもまだいいか。もう少し奥も見たかった。木曾ヒノキがどのような物か分かった。」などの感想が寄せられる中、帰路につきました。

各地からのたより

多摩市小学生

今年度の体験林業を終了

〔南信署〕十月六日、八ヶ岳山麓の遊々の森「多摩市民の森」において、多摩市立南豊ヶ丘小学校六年生三十二人の体験林業を実施しました。

当署では、毎年多摩市内の全小学校六年生を対象に体験林業を実施しており、今年度は、述べ八百六十八人全員が無事故で終了することができました。

また、多摩市の小学生の体験の場とあわせ、多摩市民も森林活動やふれあいができる遊々の森「多摩市民の森」の協定を締結しており、今後、市民による森林整備も予定されています。

小学生の体験林業は五月下旬から始まり間伐作業や現地の間伐木の根を掘り出した標本を使つての森林教室などを行いました。

八月には、夏休み前の体験林業の反省会を持ち、学校での事前学習、時間設定の弾力化と厳守、森林内での遊びの導入などについて後期に生かすこととしました。

後期は、時間の厳守や午後の活用などで作業の完成度が上がり、事前学習で児童の関心もアップしたことが実感されました。

また、素手での木登り体験やロープ遊び、輪ゴムの弓矢遊びなど遊びの要素を取り入れたことから、子供には印象に残る体験になったと考えています。



上手に切れるかな

「水無湿原回復作業」を実施

〔富山署〕山々の色が紅葉し始めた十月十日、南砺市利賀村の水無湿原立自然公園内水無国有林において、当署ボランティア「チョットやってみんげ森づくり」隊員及び地元ボランティア団体「飛翔の会」会員ら十三名で湿原回復作業を実施しました。

水無湿原の回復作業は、平成十年の集中豪雨で沢が荒れ大量の土壌が流失後、ヤナギ・アシ等が生い茂り乾燥化が進んだため、地元利賀村（現南砺市）、県自

然保護協会と富山署で再生方法を検討し、一帯の整備を三年前から村・ボランティアらの手で行っています。

地元利賀村と連携し、これまでに木道の整備、簡易木柵の設置、植生の整理を行った結果、今春にはミズバショウやユウキンカ等の植物が一面に咲き誇る素晴らしい湿原へと姿を取り戻しつつあります。

十月初旬といえども肌寒さを感じる中、参加者らはヤナギやチシマザサ等を手際よく刈り払いをして沢へ集積し、水の流れが緩やかになり拡散されるよう作業を行いました。

参加者は、多くのミズバショウなどが咲き乱れる湿原の回復を願い、来春また皆で観察に来ることを約束して帰路に着きました。



寒い中で刈払い作業

緑の再生へ

「富山署」クリーン富山運動推進協議会、富山商工会議所環境・文化委員会の「水と緑の再生へ向けての植樹事業」が、十月十六日富山市八尾町の大谷国有林で行われました。

同会では、これまで富山市内でのゴミ拾いや落書き消し等のクリーン運動を行ってきましたが、会の講演会で会員から森林の大切さを学び、「豊かな富山湾の源である森林を守るため何かできれば」との声が上がり、植樹について当署に協力要請があり実施したものです。



雨の中での植樹作業

当日はあいにくの小雨でしたが、参加した会員や家族三十四人は、会議所副会頭の挨拶の後、当署職員から植え方の説明を聞き、早速ハンノキとコナラ三十本を丁寧に植えていました。

参加者たちは、「森林での植樹は記念

になり嬉しかった。」「植えた木が元気に育ち、緑が増えればいい。」「この植樹で森林や水が豊かになれば意義のある活動だと思った。」「また見に来たい。」との声を残し現地をあとにしました。同協議会では継続して実施したいとの要望があり、植樹場所の選定が難しい面もありますが、今後とも協力したいと考えています。

「雨の赤沢休養林」で

育樹祭が開催される

「木曽署」十月十七日、木曽森林管理署の育樹祭が小川入国有林の赤沢自然休養林において関係行政機関、林業関係者約百名及び当署職員約百名が参加して行われました。

開会式は主催者である花見署長の挨拶で始まり、業務第二課長からは作業内容等の説明がありました。当初、土砂降りだった雨も参加者の願いが通じたのか開会式が終了し、作業が始まる頃には小降りとなりました。

午前の作業は、一二林班において人工林ヒノキの下に生育しているヒバ等の除間伐を行い、作業後の林内は、すっきり整備され順調に育ったヒノキが一層引き立つようになりました。

昼食時には、温かい豚汁が参加者に振る舞われ、冷えた体が温まり大変喜ばれ好評でした。

午後は、当署職員と希望された参加者



雨に濡れての除伐作業

で散策路になっている駒鳥コースをチップ舗装による歩道整備を行いました。チップ舗装は、樹根の保護と利用者の安全な歩行のために行うものであり、歩道の下にヒノキやスギの木片を敷き、その上にクッションとしてヒノキの樹皮を細かく粉砕したものを敷きます。

育樹祭は、当署の重要なイベントの一つですが、大勢の方が参加され、また、森林整備等に一生懸命精を出すことができ、有意義な一日となりました。

「平成日進の森」で

育樹祭開催

「木曽署」十月二十一日、小木曽国有林の平成日進の森（分収造林地）で地元木祖村と愛知県日進市との合同育樹祭を

行いました。日進市からの約三十人の参加者を含め約百五十人が、平成七年に植付けをした五・六〇畝の内約二畝のヒノキのすそ枝払いを行いました。

この平成日進の森は、平成四年度に当時の長野営林局と愛知県日進町との間で締結された「分取造林地平成日進の森林設定に関する協定」に基づき、平成五年から平成十年までに植栽された三十一・七三畝の分取造林地です。下流の自治体が水源のかん養や森林保護のため上流域の国有林に設定されたのは県内では初めてで、全国にもあまり例がなく多方面から注目されています。



ヒノキのすそ枝払い作業の様子

好天+除伐作業=達成感!

「東濃署」秋晴れに恵まれた十月二十一日、中津川市神坂の湯舟沢国有林で第十一回シティ・フォレスト事業を行

い、隊員十八名が参加しました。隊員の中には湯舟沢国有林内での作業は、今回初めてと知って参加した人もいて、シティ・フォレストに対する関心の高さに驚かされました。

現地到着後、各自準備を整えてからミレーティングを行い、現地の説明や作業方法の実演に、隊員は真剣に目を凝らし耳を傾けていました。その後、三班に分かれて作業を開始しましたが、場所によってはササの多い箇所や急傾斜の所での作業に四苦八苦しながらも、各々熱心に取り組み、一日の作業を終えました。

手鋸での作業に皆さん最後には疲れを見せましたが、その分達成感も大きく、「きつい仕事でしたが楽しくでき、爽快感があつてとても好きです。」「今後も今回のようなやりがいを感じる所でありたい。」という声が聞かれ、山の手入れの大切さを身をもって感じる一日を過ごしました。



きつい作業の後は達成感

**オカリナの演奏を聴きながら
秋の深まりを感じよう**

「名古屋事務所」十月二十三日、JR秋のさわやかオーキングと共催で、森の音楽会を開催しました。

参加者はJR定光寺駅からゴール地点の中水野駅までの約八キロを、深まりゆく秋を感じながらゆっくり散策しました。中継地点の森林交流館では、記念品として、職員手作りの竹炭と木製のキーホルダーを各々百人に配布しました。



オカリナの演奏

小雨がばらつく肌寒い日となりましたが、十時からの配布時間前に長い列が出来、用意した記念品は瞬く間になくなりました。

また、ウッドデッキでは森の音楽会として、犬山市のオカリナサークルの「ポッポス」の方たちによる演奏が行われ、記念品を手にしたハイキンググループや

家族連れは、秋をテーマにした曲や愛知万博に因んで世界各国の名曲等の演奏に聴き入りました。

当日の森林交流館への来館者は約千五百人余りに及び、終日賑わいをみせました。

森林教室（炭について学ぼう）

「名古屋事務所」十月二十五日、じょうこうじ響きの森（瀬戸国有林）において、名古屋市立志段味西小学校五年生百五人が森林教室のなかで、炭焼き体験をしました。

志段味西小学校では、総合的な学習の一環として、森林に対する理解を深め、環境保全の必要性を学ぶことを目的として、十七年度に三回森林教室が計画されています。今回は、六月に名古屋事務所職員が学校に向いて行った座学を、体験型教室で学んだものです。

当日は、炭窯（黒炭用）の炭の出し入れをする班と、割り箸を活用した炭作り

の班の二班に分かれて行いました。炭窯は、前もって焼かれていたヒノキの炭を、マスクをして取り出しました。また、空になった炭窯に、次回焼くために資材を一杯詰めました。体中真っ黒になりながらの中腰の作業に、小学生たちは、思っていたよりずっと大変な作業だと感想を言っていました。

割り箸の炭作り班は、一人ずつ割り箸



材料を入れるのも大変

をアルミ箔に包み火にかけて、自分の炭を作りました。包む時に空気が入っていると火が入り上手く出来なかつたりと、四苦八苦しながらも、アルミ箔をソツと剥がし、きれいな炭が出来ていると歓声が上がっていました。

その他にも炭についての話や、火おこし体験もあり、炭の効果やパワーを学び、火おこしの大変さも感じました。予定の時間もオーバーするくらいの沢山の質問もあり、森林や自然に対する理解が深まったことと思います。

木曾ヒノキ備林の散策会を実施

「東濃署」十月二十六日、一般市民の方を対象とした木曾ヒノキ備林の散策会を実施しました。

この散策会は、地域発案システムによる取り組みとして、地元の皆さんに国有林の特徴や森林の取り扱いなどをPRすることを目的に行ったもので、中津川市民の方を中心に二十九名の参加がありました。

した。

朝十時に東濃署を出発し、加子母裏木曾国有林にある木曾ヒノキ備林の見学を中心に、今年六月に実施された御神木の伐採跡地や、推定樹齢千年の二代目大ヒノキなどを見てまわりました。

途中、木の文化を支える森づくりとして昨年設定した「裏木曾古事の森」や、治山事業の実施箇所も視察し、紅葉が始まった高樺の滝を最後に十五時頃署へ戻りました。

昼食時には職員手製の豚汁サービスも行い、参加者の方からは「日頃見る機会の少ない国有林を見学できてよかったです。」

「二日楽しく山の勉強ができた。」などと喜ばれ、中には、「山の大切さを伝えようとする皆さんに感動した。」とうれしい言葉もいただきました。



御神木伐採跡地で説明を聞く参加者

地元小学校五年生児童らと育樹祭を実施

「中信署」十月二十八日、信濃富士（有明山）の麓、松川村の馬羅尾国有林において、子供たちが森林を育てることの重要性に関心をもち、森林・林業に対する認識をより高めてもらう目的で、今までの植樹祭に変えて、育樹祭を今回初めて実施しました。

地元の松川村立松川小学校を対象に、森林に親しむ企画を通じて、森林環境教育や情操教育の場として国有林の活用を広めるため森林組合等の参加を要請し、地域と連携して行うこととしました。

当日は、すばらしい秋晴れの下、同小学校五年い組の児童三十七名をはじめ、地元関係者、職員等総勢約九十名で、平成十四年度に植樹祭で広葉樹を植栽した箇所の下草刈りと近接のヒノキ林分の枝打及び間伐の育樹作業を行いました。

児童たちには、はじめに、地元松川森林官と森林ふれあい係長を講師に、森林の働きや枝打、間伐の必要性について森林教室を行い、その後、小型ノコギリを使っての作業に移りました。

枝打作業は専用のハシゴに登って二メートルの高さまで行い、間伐は班毎に二本を伐り倒し、木工クラフト用の部材にするため、輪切りまでの作業を行いました。作業中、児童たちはハシゴを登って少しワクワクした気分や、倒した木の上

に全員で乗って少し誇らしげな気分を味わっていました。最初にノコギリをうまく使えなかった児童も作業が進むにつれてみるみる上手になりました。

午後からは、ネイチャーゲームと木工クラフトを行いました。ネイチャーゲームは、森林ふれあい係長を講師に職員も加わり、森林の生長や林業の仕事などをゲームで紹介する「によきによきゲーム（森になろう）」を行い、木工クラフトでは、事前に用意した置物「森のこびとたち」を手本に、間伐したヒノキの輪切り材の上に、大小の輪切り材や小枝、ドングリやマツカサと動眼などを貼り付けて、オリジナルの置物（飾り物）を作製しました。

児童たちは、育樹祭を通して、森の木を育てる充実感や小枝やドングリを使った世界で一つの置物を創作する楽しさを体験し、良い思い出になったようです。学校の机で習う教科とちがいで、五感を使った野外活動は森のフイトンチッドの効果と相まって、児童たちにはつらつとした行動を自然に起こさせる機会となりました。今後ともこのような企画を増やしてゆくべきと、職員も自信がついた日となりました。



ハシゴに登って枝打作業

指導普及業務

「紅葉の野麦峠を歩く」

― 第三回森林倶楽部 ―

「指導普及課」森林倶楽部の第三回イベント「紅葉の野麦峠を歩く」を十月十五日、長野県松本市・岐阜県高山市境の野麦峠で開催しました。あいにくの秋雨となりましたが会員九十八名が参加され、指導普及課、中信・飛騨署、奈川自然案内人の会のインストラクターの案内により、明治時代にこの峠を飛騨地方から女工が通ったという歴史を感じながら、黄色や紅色に色づきはじめてブナやカエドを見ながらのトレッキングを十一班に分かれて実施しました。

今年度の森林倶楽部も今回を持って無事終了となり、特別企画を含めて四回実施し、延べ三百十六人の会員の方が参加されました。一年を通して台風や雨に悩まされた森林倶楽部となりましたが、会員の皆さんはゆっくりとしたトレッキングができたのではないのでしょうか。

グリーンボランティア・サミットを開催

「指導普及課・木曽森林環境保全ふれあいセンター」紅葉に色づく長野県上松町の赤沢自然休養林において、十月二十五

二十六日の両日、中部局管内の「ふれあいの森」や「遊々の森」等の協定締結団体や管内の国有林をフィールドに活動している森林ボランティア団体等五十名と各森林管理署等の森林ふれあい係長等が参加し、「グリーンボランティア・サミット」を開催しました。

このサミットは、従来実施していた「ふれあいの森」の協定締結団体との森林ボランティアネットワーク会議を拡充し、管内の森林ボランティア団体等が一堂に会して学び交流できる機会を設け、ボランティア団体等の支援及び国民参加の森林づくりの一層の推進を図ることを目的に開催したものです。

初日、各団体が今後活動して行く上で役立つ各ワークショップ（チェンソーの取扱い、木工クラフト、ネイチャーゲーム）を実施し、その後、近畿大学生物理工学部講師の新田和宏さんより、「緑の雇用事業とボランティア」と題して、見えるボランティアと見えないボランティアについての講演をいただきました。二日目は、「赤沢を歩こう」と題して森林鉄道に乗車した後、自然休養林内を約二時間散策しました。参加者からは「情報のネットワーク作

りに大変役立った。」「今後の活動に役立てていきたい。」「継続開催を望む。」等の前向きな意見をいただき、各森林ボランティア団体等が今後の活動に役立たいという熱意が伝わる二日間となりました。



チェンソーの目立を実施

「ながの緑のオーナー友の会」

「国有林野管理課」十月二十二日に第十七回「ながの緑のオーナー友の会」（田澤会長）の総会が、飯山市のなべくら高原「森の家」で開催されました。

この友の会は、長野県内で分収育林契約をされている方々が、分収育林を通じて親睦、森林とのふれあいを目的に、趣旨に賛同した方が集う会で、オーナーの方たちにより運営されており、会員は約

四百名、毎年、管内の自然休養林等で総会を兼ねた交流会が開かれています。当日は約一百名の方が参加し、局長からは長江計画部長、酒井北信署長の外、国有林野管理課及び北信署の職員四名が参加しました。

総会に続く交流会は、関田ロングトレイルの拠点の一つである、関田峠近くで開催され、茶屋池周辺のブナ林を散策する予定でしたが、あいにくの「雪起こし」の時雨れ模様のため短時間の散策となりました。それでも七年ぶりの豊作となったブナの実が、強い風と雨でパラパラと降ってくる様に歓声をあげ早速試食の方も。普段あまり経験できない交流会となりました。

参加された方の約五割は東京方面からの参加であり、モデルプロジェクトとして、またリーディング・プロジェクトとして取り組んでいる北信濃の豊かな自然を紹介することができました。



参加した皆さんで記念写真

トレッキングの様子

四林野球大会開催される

「野球部有志」十一月三日、旧局時代（林野庁、東京局、前橋局、長野局）から永い歴史を持つ「四林野球大会」が前橋市で開催されました。

中部局からは十四名の有志が集まり参加しました。

一回戦は東京チームとの対戦となり、一回犠牲フライで上げた一点を、投手を中心とした安定した守りで一対〇のまま逃げ切りました。

決勝では、林野庁チームと対戦し、先制したものの逆転され、何度か作ったチャンスに後一本の決定打が出ず惜しくも二対一で敗れ準優勝となりました。

両試合とも緊迫したゲームとなり、試合後の懇親会ではお互い親睦を深めました。

毎年有志で声を掛け合いながら参加していますが、来年に向けては、中部局が



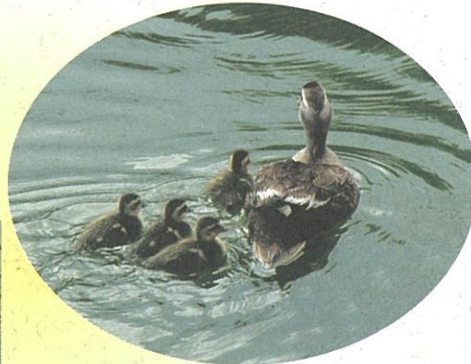
ヒットを打って

当番といったこともあり、中部局の中で交流を広げ、更に多くの人に参加できると考えています。

カルガモが巣立ちました

「広報室」中部森林管理局の玄関前の池で営巣していたカルガモは、七月十二日に八羽のヒナが孵り、内七羽が順調に成長して、十月六～十四日にかけてそれぞれ巣立ちました。

七月から三ヶ月間、職員を始め多くの見学者の目を楽しませてくれました。



孵化したばかりのカルガモ



生後78日目のカルガモ

国有林の地域別の森林計画へご意見を

中部山岳（長野県）、長良川（岐阜県）、尾張西三河（愛知県）森林計画区の森林の整備及び保全目標などについて定める「国有林の地域別の森林計画書」、機能類型ごとの管理経営の指針や事業量などについて定める「地域管理経営計画書及び国有林野施業実施計画書」を縦覧していますので、ご覧いただきご意見をお寄せください。

【縦覧場所、問い合わせ先等】

○国有林の地域別の森林計画・地域管理経営計画及び国有林野施業実施計画

・中部山岳の縦覧場所：

中部森林管理局企画調整室 (☎026-236-2516)

中信森林管理署 (☎0263-47-4751)

木曾森林管理署 (☎0264-52-2083)

・長良川の縦覧場所：

中部森林管理局企画調整室 (☎026-236-2516)

岐阜森林管理署 (☎0576-62-3121)

名古屋事務所 (☎052-683-9203)

・尾張西三河の縦覧場所：

中部森林管理局企画調整室 (☎026-236-2516)

愛知森林管理事務所 (☎0536-22-1101)

名古屋事務所 (☎052-683-9203)

国有林モニター第1回アンケート結果

[企画調整室]

国有林モニターは、国有林に関心のある皆さんに幅広く情報提供をすると共に、ご意見を伺うための取り組みです。中部森林管理局では管内各県にお住まいの25名の皆様をお願いしています。

第1回目のアンケートは、「自然環境の保全等に関する中部森林管理局の取組」をテーマに実施しましたので、その結果をお知らせします。

問

中部森林管理局は原生的な森林の維持、希少野生動植物の保護など、国有林において自然環境の保全・管理に取り組んでいます。森林管理局が行っているこうした取り組みについて知っていましたか？

回答

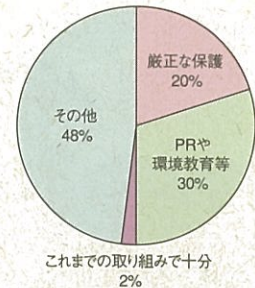
「全く知らなかった」は約1割、「知っていた」は約2割で、「何となく知っていたが具体的にどんなことをしているのかは知らなかった」などが大半を占めました。

問

国有林での自然環境を守る取り組みで、今後重視していくべきことは何だと思えますか？

回答

「自然環境の大切さなどについて理解させるため、PRや環境教育等を重視すべき」が約3割と最も多く、次に「立入り規制や取締まり等の強化による自然環境や生態系の厳正な保護」、そして「これまでおこなってきた取り組みで十分」は1割未満でした。

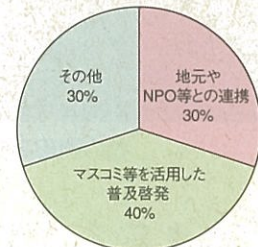


問

自然環境を守る取り組みを進める際に、必要だと思うことはどんなことだと思えますか？

回答

「マスコミ等を活用した普及啓発」が約4割、「地元やNPO等との連携」が約3割を占めました。

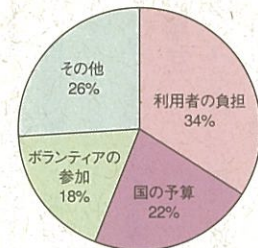


問

ゴミ処理やパトロールなどの対策が課題となっています。これらの取り組みをどのように進めていけばよいと思えますか？

回答

「施設の維持管理経費等については利用者の負担により」が約3割と最も多く、次に「経費等は国の予算(税金)で」、「ボランティアなど国民が参加することが重要」がそれぞれ約2割を占めました。



問

保安林制度について知っていましたか？
保安林制度に基づき治山事業が実施されていることを知っていましたか？

回答

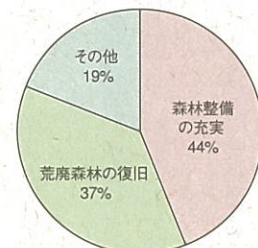
2問については、ほぼ同じ割合で「知っていた」、「何となく知っていた」が大半を占め、「全く知らなかった」は約1割でした。

問

保安林の取り組みで、特に重要なことはどのようなことだと思えますか？

回答

「森林整備の充実」、「荒廃森林の復旧」がそれぞれ約4割を占め、「制限の緩和」はゼロでした。



中部森林管理局では、18年度も「国有林モニター」を募集する予定です。
詳細は、次号に掲載いたします。



「御岳東麓」

◇開田高原

島崎藤村の小説「夜明け前」の書き出しに、木曾谷のほとんどが切り立った峻険の地であると紹介しています。なるほど、国道十九号やJＲで木曾川沿いを通るとその感ひとしおです。しかし、福島から国道三六一号の旧道をたどり旧木曾福島町と旧開田村の境に位置する地藏峠を越えると、眼前に広がるなだらかな御岳の裾野に、ここが木曾谷かと疑うような景観が広がります。

また、霊峰御嶽山の懐に入り込むと、火山特有の地層と豊富な雨量に恵まれ、各所に滝があり瀑布巡りが楽しめます。

◇スキー場

御岳の長野県側には、開田・三岳・王滝に三つのスキー場がありウインタースポーツが楽しめます。



秋の開田高原から望む御岳

夏場には御岳登山口となっていて、主に中京圏から多くの人が訪れています。ゴンドラリフトからは切立った木曾山脈の手に御岳の広大な裾野が広がり木曾谷の雄大な眺望が楽しめます。

◇開田蕎麦

農業の面では、高原の冷涼な気候を利用して、そばや高原野菜などの栽培が盛んで、長野県では戸隠そばと並び称され霧科そばとして有名で、景色もさながら味覚の面でも満足感が得られます。

十一月一日には木曾福島町・日義村と御岳を有する開田村・三岳村の四町村が



木曾馬

合併して人口一万四千人の木曾町が発足して、観光やレジャー、農業面でさらなる発展が期待されています。

◇アクセス方法

「そばを食べたり乗馬を楽しみたい場合」

J R 木曾福島駅から開田高原乗馬センターまでバスで約二十五分

「ウインタースポーツや瀑布巡りを楽しみたい場合」

国道十九号線「元橋」信号を三岳経由で高山市方面へ車で約三十分



スキー場から望む御岳

行事・イベント等の予定

◎長野市環境子ども会議

11月27日 長野市

◎松川入検討委員会

12月2日 中部森林管理局

◎地域管理経営計画等検討会

12月21日 中部森林管理局

◎岐阜県砂防治山連絡調整会議

12月22日 岐阜市